

令和2年度 事業報告

1. 公益目的事業の推進

本財団の事業は、広島原爆被爆の記憶を原点として、世界平和都市広島としての責任と義務を果たすべく、国際平和の実現とより密接な国際交流を図り、平和の啓発活動を推進するため、下記の事業を実施した。

(1) 第32回 谷本清平和賞

この賞は、本財団の発起人であり日本キリスト教団広島流川教会の牧師であった谷本清氏が、被爆後世界平和のために活躍された功績を継承し、さらに世界が平和であることを願って、毎年平和のために貢献した人(含む団体)を表彰する。

第32回の谷本清平和賞は、アメリカ人で広島在住のアーサー・ビナード氏に授与した。1990年に来日してから修得した堪能な日本語を活かした詩作や翻訳作品は、文芸・出版界において高く評価され、多くの文芸賞を受賞した。2011年広島市へ移住した後は、「被爆」「ヒバクシャ」「被爆遺品」に向き合い、ヒロシマに関する絵本や紙芝居など数多くの作品を発表した。また、平和教育や講演会など教育現場や市民の集いに積極的に出向き、核兵器の恐ろしさを説き、恒久平和を深く熱く訴え続けている。

(2) 第31回 世界平和弁論大会(中止)

例年、谷本清平和賞贈呈式と併せて開催している外国人留学生による日本語の「世界平和弁論大会」は、広島で学ぶ若者たちが平和への思いを発信できる機会として、本年も大会を開催する予定であった。

しかしながら、近年の新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延により、留学生の来日が困難となり誠に残念ながら、本年度の世界平和弁論大会は中止を余儀なくされた。一日も早く世界中の感染症が終息し、今まで通りの平和で安寧な日常が戻ることを切に願っている。

(3) その他の事業

該当なし